

平成 26 年度 事業計画書

自 平成 26 年 1 月 1 日
至 平成 26 年 12 月 31 日

- | | | |
|-----|-------------|----------|
| I | 国際交流に関する事業 | 1 頁～ 3 頁 |
| II | 登録に関する事業 | 3 頁～ 7 頁 |
| III | 引退競走馬に関する事業 | 7 頁～ 8 頁 |

平成26年度 事業計画

我が国の経済は、円安等に伴う輸出環境の改善や我が国の経済対策、金融政策の効果なども相俟って、緩やかに回復していくことが期待されているものの、今後についてはいまだ不透明な状況下にあります。

このような経済情勢の下、本財団は、引き続き経費の削減、業務の効率化を進めるとともに、広く一般市民の視点に立った事業運営の推進に取り組み、公益財団法人として、国際相互理解の促進、国内外の軽種馬の改良増殖、公正な流通の促進、競馬に対する信頼の確保及び馬の福祉に寄与してまいります。

I 国際交流に関する事業（公益目的事業1）

1 競馬に関する情報の収集及び提供事業

（1）海外競馬関連情報の収集及び国内への提供

海外の競馬及び生産等に関する定期刊行物・書籍等から最新の話題やニュースを収集・翻訳・編集してホームページ等で広く一般に提供します。

- ・「海外競馬ニュース」（毎週・ホームページ）、「海外競馬情報」（毎月・ホームページに加え印刷物も配布）

（2）我が国の競馬関連情報の海外への提供

ア 海外の競馬関係者ほか一般市民向けに、我が国の競馬及び軽種馬に関する最新情報のほか、関係法令、競馬場、開催日程等の情報を外国語版（英、仏、中、韓）ホームページ（「Japan Racing Journal」、「Horse Racing in Japan」等を含む。）などで提供します。

また、海外からの電子メール・電話等での各種問合せに対処し、情報提供を行います。

イ 国際相互理解を促進するため、主要国際競走のライブ映像を海外に提供し、我が国の競馬を積極的に海外へ周知するとともに、関連情報を外国語版ホームページ等に掲載します。

2 競馬の技術等に関する海外との交流事業

(1) 技術研修

ア 定期研修

アジア競馬連盟加盟国の競馬統括機関及び関係機関が公募・推薦した者を対象に、我が国の競馬施行及び軽種馬生産全般に関する定期研修（年1回、8名程度、12日間）を実施します。

イ 専門研修

アジア競馬連盟加盟国、アジア地域の競馬発展途上国の競馬関係者等を対象に、競馬施行・軽種馬の生産・育成・獣医・装蹄技術・血統登録等に関するより高度な専門知識の取得及び技術の向上を図るための専門研修（年数回程度、5名程度、約1週間）を実施します。

(2) 技術指導

アジア地域の競馬発展途上国等の競馬統括機関若しくは公的機関の要請に応じて、海外の軽種馬関連産業に従事する者を対象に技術指導を実施します。

(3) 国際交流のための支援

ドバイ・香港等で行われる国際競走へ職員を派遣、香港で開催されるアジア競馬会議への参加等の人的交流を行うほか、国際競走に参加遠征する人馬の支援を行います。

(4) 中国に関する事業

中国における馬産業の発展及び我が国の競馬関連産業の進出に資するため、中国の馬産業の状況を把握した上で、我が国の競馬に関する知識や技術等の普及、血統登録馬によるレース実施等を図るとともに、行政関係者の招聘、日本側指導者の派遣及び研修生の受入れによる人材育成を行います。

Ⅱ 登録に関する事業（公益目的事業2）

1 軽種馬の登録事業

(1) 血統及び繁殖登録

近年の生産頭数の動向を踏まえ、次の頭数を見込んでおり、登録規程、登録規程実施基準に基づき厳正に審査・登録を実施します。また、登録した馬についてはそれぞれ登録証明書を交付します。

ア 血統登録

区分	品 種		平成 26 年の 申込見込み頭数	平成 25 年の 申込見込み頭数
内国産馬	サラ 系統	当歳	6,270	6,100
		1 歳	290	290
		計	6,560	6,390
	アラ 系統	当歳	5	6
		1 歳		
		計	5	6
	計	6,565	6,396	
輸入馬		110	115	

イ 繁殖登録

区分	品種	性	平成 26 年の 申込見込み頭数	平成 25 年の 申込見込み頭数
血統登録 済みの馬	サラ 系統	雄	20	20
		雌	1,000	1,000
		計	1,020	1,020
	アラ 系統	雄	1	1
		雌	2	2
		計	3	3
輸入馬		雄	3	3
		雌	100	100
		計	103	103

なお、血統及び個体識別の明確化を図るため、血統登録申込み産駒のすべて及び繁殖登録をする馬のうち必要なものについて、毛根検体による DNA 型検査等を実施します。平成 26 年度は 6,920 頭を見込み、検査は公益財団法人競走馬理化学研究所に委託します。また、芦毛の遺伝子型検査について 690 頭を見込み、同研究所に委託します。

(2) 馬名登録

近年の血統登録の動向を踏まえ、次の件数を見込んでおり、馬名登録実施基準に基づき迅速かつ適正に審査・登録を実施します。

区分	見込み件数	
	平成 26 年	平成 25 年
馬名登録	6,900	7,000
馬名変更 (内数)	210	210

2 血統登録等の情報の提供事業

(1) 軽種馬の登録情報等の提供

血統登録、馬名登録等各種情報について、本財団自らホームページ等で公表するほか、競馬主催者団体をはじめ軽種馬生産者団体、マスコミなどに提供し、これらの機関等の最終制作物（ホームページ、印刷物等）を通じて国内外に広く公表します。

(2) 血統書の発行

登録した軽種馬を国際基準に基づき和文血統書（サラブレッド、その他の品種）、欧文血統書（サラブレッド、アラブ）に登載し、ホームページ等で国内外に広く公開します。

(3) 軽種馬統計等の発行・公開

ライフステージ別の統計データ、輸出入などのデータを取りまとめ、「軽種馬統計」を発行するほか統計データをホームページで公開します。

(4) 個体情報の提供

血統登録した馬については、「馬の健康手帳」に貼付される個体確認書を発行するとともに、そこに印刷された二次元バーコードを利用して特徴図などの個体情報を提供します。

3 海外の血統書統括機関との連携事業

(1) 国際血統書委員会（ISBC）への参画

9月下旬に英国のニューマーケットで開催予定の本委員会にアジア地域の代表メンバーとして出席し、血統登録要件等の国際基準を確認するとともに、国際間の血統書承認に関する諸案件等について協議します。

(2) アジア血統書会議（A S B C）の主宰

I S B Cの地域代表として、インドとともに5月に香港において、第12回A S B Cを主宰、アジア各国との情報交換やI S B C年次会議の報告などを行います。

(3) 承認を希望する国の調査・指導・査察

I S B Cのアジア地域代表として、新たな血統書承認のための調査のほか、地域の血統書承認国に対して、必要とされる現地査察や業務指導を行います。

(4) 軽種馬の輸出入に関する事務

ア 輸出証明書等の交付等

軽種馬の輸出入に当たり、相手国の血統書統括機関との間で、国際基準に基づいて当該馬に係わる輸出証明書及び馬の個体識別手帳（パスポート）の交付・受領等の事務を行います。

イ 馬名の承認に関する事務

国際基準に基づいて出生国の承認が必要になっている馬名の登録・変更照会を相互に行い、審査し承認します。

4 登録事業に関するシステム関係

(1) システムの改善と適切な管理運用

登録業務の効率的・効果的な推進を図るため、登録審査業務へタブレット端末を導入するためプロトタイプを作成するとともに、血統登録した馬の個体情報を提供する個体確認書に特徴図を印刷するプログラムを作成します。

また、平成25年に導入した種付情報管理システム及び電子馬名登録申込システムについては、利用者の意見を反映した検索機能の追加など更なる利便性の向上に取り組めます。

併せて、競馬主催者や生産者団体等との間で恒常的に行う競馬情報や登録情報の安定的なデータ送受信を図るため、システム改善やプログラム作成を行うとともに、システムの適切な管理運用を行います。

(2) 血統書データベースのサービスの改善

血統書データベースサービスや同サービスで提供する軽種馬の登録情報などについて、閲覧者がより利用しやすい環境に整えるとともに、利便性向上のための必要な改善を行います。

5 競走馬マイクロチップ埋込推進事業

軽種馬へのマイクロチップの埋め込みを推進するために、生産牧場等の飼養者に対してマイクロチップの埋め込みに要した費用の一部を助成します。

Ⅲ 引退競走馬に関する事業（公益目的事業3）

1 引退競走馬の繋養展示活動への助成事業

(1) 繋養展示活動への助成

競走、繁殖、乗馬などの経済活動を終えた高齢の引退競走馬のうち、競走馬として活躍し、競馬の発展に貢献した名馬を繋養展示する所有者に対し対象馬の飼養費等に係る経費の一部を助成します。

(2) 馬名プレートの提供

繋養展示する施設を訪れた一般市民に対して、助成を行う高齢の引退名馬の情報を分かりやすく伝えるため、馬名や血統、毛色、競走成績等を表示するプレート（2枚）を繋養展示する施設に提供します。

2 引退競走馬の情報提供事業

一般市民や競馬ファンに対して、引退競走馬のホームページやパンフレットなどを通じて、繋養展示している引退競走馬の近況や繋養展示する場所について紹介します。

また、助成金の申請者等に対して、申請時期、手続き方法等をホームページを通じて、分かり易く紹介します。